



# Cisco Prime Collaboration Deployment 管理インターフェイス要素

- 共通の管理インターフェイス要素 (1 ページ)
- モニタリング ビュー要素 (2 ページ)
- タスク ビュー要素 (7 ページ)
- インベントリ ビュー要素 (33 ページ)
- 管理ビュー要素 (45 ページ)

## 共通の管理インターフェイス要素

次の要素は、Cisco Prime Collaboration Deployment の管理インターフェイスのすべてのビューで共通です。

設定	説明
ナビゲーションボタンを開いて閉じる	は、垂直ペインに表示されるメニューに移動するためのアクセスを提供します。このボタンビューをクリックして、メニューを非表示にします。  (注) アプリケーションに初めてサインインすると、このボタンを示す透明な灰色の画面が表示されます。この画面には、通知をオフにするポップアップメッセージも表示されます。
検索とインデックス作成	アプリケーションで検索を許可するための検索テキストボックスを表示します。また、インデックスとして Cisco Prime Collaboration 導入オプションも表示されます。  (注) 検索オプションを表示するには、ナビゲーションの開閉ボタンをクリックします。
概要	Cisco Prime Collaboration Deployment のバージョンを提供します。この設定には、著作権と商標情報も含まれます。

設定	説明
ログアウト	サーバを終了します。
ヘルプ	コンテキスト依存のヘルプ情報を提供します。
情報 ([i] ボタン)	現在表示しているページに関する情報を提供します。
開始 (フラグ ボタン)	サーバでシステム レベルのタスク実行を開始するための情報を提供します。

## モニタリング ビュー要素

タスクのスケジュール設定後は、[モニタリング (Monitoring) ] ページを使用してタスクをモニタおよびコントロールできます。

設定	説明
タスク キュー (Task Queue)	<p>Cisco Prime Collaboration Deployment 内に含まれるすべてのタスクのリスト。このリストには次のタスクを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• スケジュール済み</li> <li>• キャンセル</li> <li>• 開始済み</li> <li>• 一時停止 (Paused)</li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止)</li> <li>• 成功 (Successful)</li> <li>• 失敗 (Failed)</li> <li>• アップグレード作業</li> <li>• Switch Version Tasks (バージョン切り替えタスク)</li> <li>• Server Restart Tasks (サーバの再起動タスク)</li> <li>• Readdress Tasks (タスクの再アドレス付け)</li> <li>• Install Tasks (タスクのインストール)</li> <li>• タスクの移行 (Migrate Tasks)</li> </ul> <p>[タスク キュー (Task Queue) ] 内のタスクのいずれかをクリックすると、右上のパネルにそのタスクの詳細が表示されます。</p>

設定	説明
タスク ステータス	

設定	説明
	<p>[モニタリング (Monitoring)] ページの右上部分に、特定のタスクに関する次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Status</li> <li>• Start time</li> <li>• タスク データ (例: クラスタ データ)</li> </ul> <p>タスクの詳細を表示するには、[View Log (ログの表示)] リンクをクリックします。</p> <p>以下は、考えられるタスクのステータスを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [成功 (Successful)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します</li> <li>• [開始済み (Started)] : タスクが現在実行中であることを示します</li> <li>• [スケジュール済み (Scheduled)] : タスクがスケジュールされているが、まだ開始されていないことを示します。</li> <li>• [手動開始 (Manual Start)] : タスクは開始を待機しています (ユーザはこのタスクの作成時に [タスクを手動で開始 (Start Task Manually)] オプションを使用しました)。</li> <li>• [キャンセル (Canceled)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します。</li> <li>• [一時停止 (Paused)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [エラーにより一時停止 (Paused due To Error)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています。</li> <li>• [失敗 (Failed)] : エラーが原因でタスクが停止したことを示します。</li> <li>• [スケジュール失敗 (Failed to Schedule)] : 発生したエラーが原因でタスクがスケジュールされなかったことを示しています。</li> <li>• [キャンセルできませんでした (Failed to Cancel)] : ユーザがタスクのキャンセルに失敗したことを示します。これは通常、タスクが最終状態にある場合に発生します (キャンセルできる残りのアクションはありません)。</li> <li>• [キャンセル中 (Cancelling)] : ユーザがタスクをキャンセルしたが、タスクはキャンセルに長時間かかる状態にあること</li> </ul>

設定	説明
	<p>を示しています。キャンセルされるタスクがインストールタスクまたは移行タスクである場合（新規サーバインストールフェーズ）、タスクは1時間以上この状態であることがあります。</p> <p>[成功ステータス (Successful Status)] 状態で考えられるメッセージとアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• タスクは正常に完了しました (Task completed successfully)</li> <li>• [削除 (Delete)] : タスク データを永続的に削除します。</li> </ul> <p>[開始 (Started)] 状態の考えられる操作は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。</li> <li>• [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> <p>[スケジュール済み (Scheduled)] 状態の考えられる操作は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。</li> <li>• [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> <p>[手動開始を待機中 (Waiting for Manual Start)] 状態で有効なアクションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [開始 (Start)] : タスクを開始します (このボタンは、タスクの作成時に手動開始 (Manual Start) オプションが選択された場合にだけ表示されます。)</li> <li>• [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> <p>[一時停止 (Paused)] 状態で有効な操作は以下のとおりです (ユーザがこの手順で一時停止するようタスクを設定している場合に、タスクはこの状態になります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [再開 (Resume)] : タスクは次の手順に進みます</li> <li>• [キャンセル (Cancel)] : 選択したタスクをキャンセルします。</li> <li>• [削除 (Delete)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> <p>[エラーによる一時停止 (Paused Due To Errors)] 状態で考えられる操作は以下のとおりです (システムがこのステップでエラーを検出したためにタスクはこの状態に入ります)。</p>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [再開 (Resume) ] : タスクは次のステップに進みます(再開する前に、ユーザはビューログでエラーを確認し、エラーの原因となった問題を修正する必要があります。そうしないと、タスクが失敗します)。「検証によっ」てエラーメッセージが失敗した場合は、[再開 (Resume)] をクリックすると、タスクが再検証され、最初のステップから開始されます。それ以外の場合、タスクは次の手順から開始します。</li> <li>• [Retry (再試行) ] : 最後に失敗したタスクを再試行します。</li> <li>• [キャンセル (Cancel) ] : 選択したタスクをキャンセルします。</li> <li>• [削除 (Delete) ] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> <p>[失敗したステータス (Failed Status) ] 状態で有効なアクションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [削除 (Delete) ] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul>
[タスク開始 (Start Task) ] ボタン	スケジュールされたタスクに対して実行されるタスクを開始します。
[Edit] ボタン	スケジュールされたタスクに対して [Edit (編集) ] ダイアログを開きます。
[Pause (一時停止) ] ボタン	実行中のタスクを (次のステップで) 停止します。
[Resume] ボタン	一時停止されたまたはエラーのために一時停止されたタスクを次のステップで再開します。
再試行ボタン	最後に失敗した一時停止 (エラー) タスクのアクションを再試行します。
[Cancel] ボタン	スケジュールされた、実行中、一時停止、またはエラーのために一時停止されたタスクをキャンセルします。
[Delete] ボタン	スケジュールされた、キャンセルされた、成功した、または失敗したタスクを削除します。

設定	説明
タスクの概要	<p>[タスクの概要 (Task Summary) ] セクションには特定のタスクに関する次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 送信元クラスタ</li> <li>• 宛先クラスタ</li> <li>• Unified Communications Manager アップグレード ファイル</li> <li>• Unified Presence アップグレード ファイル</li> </ul>

## タスク ビュー要素

### アップグレード ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
Status	<p>アップグレード タスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Successful (成功) ] : タスクがエラーなしで終了したことを示します</li> <li>• [Running (実行中) ] : タスクが現在実行中であることを示します</li> <li>• [Scheduled (スケジュール) ] : タスクがまだ開始されていないことを示します</li> <li>• [Canceled (取り消し) ] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します</li> <li>• [Paused (一時停止) ] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止) ] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています</li> <li>• [Failed (失敗) ] : エラーによりタスクが停止したことを示しています</li> </ul>
Start Time	アップグレード タスクの開始時刻を指定します。
Last Status Report Time (最後のステータス レポート時刻)	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	アップグレードされたクラスタの名前を指定します
注記	[Add Upgrade Task (アップグレード タスクの追加) ] ウィザードの [Review (レビュー) ] の部分に注意書きを追加

## ■ アップグレードビュー

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>特定のアップグレードタスクに対して以下を実行することを可能にします。</p> <p>(注) タスクの状態によっては、これらの操作の一部だけが許可されていることがあります（たとえば、完了したアップグレードタスクをキャンセルすることはできません）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [スケジュール済み (Scheduled) ] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Run Validation Test (検証テストの実行) ] : すべてのノードが利用可能で、使用する iso が存在することを確認するために検証テストを実行します。</li> <li>• [Edit (編集) ] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集) ] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル) ] : 選択したタスクをキャンセルします</li> <li>• [Delete (削除) ] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Canceled (キャンセル) ] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Delete (削除) ] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Started (開始) ] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル) ] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Paused (一時停止) ] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Resume (再開) ] : 次の手順でタスクを再起動するにはこのボタンを使用します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示) ] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。</li> <li>• [Start Task (タスク開始) ] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。</li> </ul> <p>(注) [Start Task (タスク開始) ] は、[Set Start Time (開始時間の設定) ] パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始) ] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリングページで使用できなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル) ] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Retry (再試行) ] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクのアクションが再試行されます。</li> <li>• [Resume (再開) ] : これにより、タスクが次の手順（失敗した手順の後の手順）で開始します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示) ] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル) ] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Successful (成功) ] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示) ] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> </ul> </li> </ul>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> <li>• [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリングページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウンリストから以下のオプションのいずれかを選択することで、アップグレードタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。</li> <li>• [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。</li> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。</li> <li>• [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。</li> <li>• [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。</li> <li>• [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。</li> <li>• [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。</li> </ul>
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをクリックし、テーブルの最上部にある [Delete (削除)] ボタンをクリックします。このアクションは、[Failed (失敗)]、[Successful (成功)]、[Scheduled (スケジュール)]、[Paused (一時停止)] の状態に適用されます。</p>
[Add Upgrade Task (アップグレードタスクの追加)] ボタン	<p>[アップグレードタスクの追加 (Add Upgrade Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [アップグレードタスクの追加 (Add Upgrade Task)] ウィザードは、特定のアップグレードタスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
<p><b>[アップグレードタスクの追加 (Add Upgrade Task)] ウィザード ウィンドウ</b></p> <p>アップグレードタスクの追加方法の詳細については、「アップグレードタスクの作成」を参照してください。</p>	
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページから、クラスタおよび製品をドロップダウンリストから選択します (すべての製品が [Products (製品)] のデフォルトオプションになっています)。一度クラスタを選択したら、[Cluster Nodes (クラスタ ノード)] テーブル内のノードのリストが表示されます。</p>
[Choose Upgrade File (アップグレードファイルの選択)] ページ	<p>[アップグレードファイルの選択 (Choose Upgrade File)] ページから、アップグレードされる各製品に対するアップグレードファイルを選択します。[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで選択した製品タイプのファイルだけを選択するオプションを利用できます。</p>

設定	説明
[開始時間とアップグレードオプションの設定 (Set Start Time and Upgrade Options)] ページ	<p>[Set Start Time and Upgrade Options (開始時間とアップグレードオプションの設定)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p> <p>また、正常なアップグレードに続けて新規バージョンに自動的に切り替えるオプションもあります。</p>
[Specify Run Sequence (実行シーケンスの指定)] ページ	<p>[実行シーケンスの指定 (Specify Run Sequence)] から、アップグレードがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[Use Last Configured Run Sequence (最後に設定した実行シーケンスを使用)] ボックスを選択します。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。</p>
[Review (レビュー)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

### 関連トピック

[アップグレードタスク](#)

## バージョン切り替えビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
Status	<p>バージョン切り替えタスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します</li> <li>• [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します</li> <li>• [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します</li> <li>• [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します</li> <li>• [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています</li> <li>• [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています</li> </ul>
Start Time	バージョン切り替えタスクの開始時刻を指定します。
Last Status Report Time (最後のステータスレポート時刻)	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	バージョン切り替えクラスタを指定します。

## バージョン切り替えビュー

設定	説明
注記	[バージョン切り替えの追加 (Add Switch Version) ] ウィザードの [レビュー (Review) ] 部分で追加された注記

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [検証テストの実行 (Run Validation Test)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。</li> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Switch Version Task (バージョン切り替えタスクの編集)] ウィンドウを示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。</li> <li>• [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [Start Task (タスク開始)] は、[Set Start Time (開始時間の設定)] パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリング ページで使用できなくなります。</p> </li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [再試行 (Retry)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクの操作が再試行されず。</li> <li>• [再開 (Resume)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Failed (失敗)] ステータス :</li> </ul>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示) ]: 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除) ]: 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウン リストから以下のオプションのいずれかを選択することで、バージョン切り替えタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick Filter (クイック フィルタ) ]: ステータスに基づいてタスクをフィルタします。</li> <li>• [All (すべて) ]: 利用可能なすべてのタスクを表示します。</li> <li>• [Scheduled (スケジュール済み) ]: スケジュールされたタスクを表示します。</li> <li>• [Canceled (キャンセル) ]: キャンセルされたタスクを表示します。</li> <li>• [Running (実行中) ]: 開始されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused (一時停止) ]: 一時停止されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止) ]: システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。</li> <li>• [成功 (Successful) ]: 成功したタスクを表示します。</li> <li>• [失敗 (Failed) ]: 失敗したタスクを表示します。</li> </ul>
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[フィルタ (Filter) ]をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの最上部にある[削除 (Delete) ]ボタンをクリックします。削除するタスクの[操作 (Actions) ]列の下の[削除 (Delete) ]をクリックすることもできます。</p>
[Add Switch Versions Task (バージョン切り替えタスクの追加) ] ボタン	<p>[バージョン切り替えタスク (Switch Versions Task) ] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [バージョン切り替えタスク (Switch Versions Task) ] ウィザードは、特定のバージョン切り替えタスクの[操作 (Actions) ]列で[編集 (Edit) ]を選択することでも開くことができます。</p>
<p>[バージョン切り替えタスクの追加 (Add Switch Versions Task) ] ウィンドウ</p> <p>バージョン切り替えタスクの追加方法については、「バージョン切り替えタスクの作成」を参照してください。</p>	
[クラスタの選択 (Choose Cluster) ] ページ	<p>[クラスタの選択 (Choose Cluster) ] ページで、ドロップダウン リストからクラスタを選択します。クラスタの選択後に、ドロップダウン リストから製品バージョン (パブリッシュにインストールされているバージョン) を選択する必要があります。クラスタに複数の製品がある場合、一つ以上の製品のバージョンを切り替えないオプションがあります。1つの有効なバージョンを選択するかわりに先に進むことができます。</p>
[Set Start Time (開始時間の設定) ] ページ	<p>[Set Start Time (開始時間の設定) ] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の時間の開始、タスクの手動による開始、またはウィザードの完了時の即時開始の設定のオプションがあります。</p>

## サーバ再起動ビュー

設定	説明
[Set Run Sequence (実行シーケンスの設定)] ページ	<p>[Specify Run Sequence (実行シーケンスの指定)] から、バージョン切り替えがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[最後に設定した実行シーケンスを使用 (Use Last Configured Run Sequence)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[レビュー (Review)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページには、これまでの手順で選択したオプションの概要が表示されます。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

## 関連トピック

[バージョン切り替えタスク](#)

## サーバ再起動ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
Status	<p>サーバ再起動タスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [成功 (Successful)]: タスクがエラーなしで完了したことを示します。</li> <li>• [実行中 (Running) ]: タスクが現在実行中であることを示します。</li> <li>• [スケジュール済み (Scheduled) ]: タスクがまだ開始されていないことを示します。</li> <li>• [Canceled (取り消し) ]: ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します</li> <li>• [Paused (一時停止) ]: タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止) ]: タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています</li> <li>• [Failed (失敗) ]: エラーによりタスクが停止したことを示しています</li> </ul>
Start Time	サーバ再起動タスクの開始時刻を指定します。
Last Status Report Time (最後のステータス レポート時刻)	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	サーバ再起動クラスタを指定します。
注記	[再起動タスクの追加 (Add Restart Task) ] ウィザードの [レビュー (Review) ] 部分で追加された注記

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。</li> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Server Restart Task (サーバ再起動タスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。</li> <li>• [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [Start Task (タスク開始)] は、[Set Start Time (開始時間の設定)] パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリング ページで使用できなくなります。</p> </li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Retry (再試行)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクのアクションが再試行されます。</li> <li>• [Resume (再開)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウン リストから以下のオプションのいずれかを選択することで、再起動タスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。</li> <li>• [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。</li> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。</li> <li>• [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。</li> <li>• [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています。</li> <li>• [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。</li> <li>• [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。</li> </ul>
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをクリックし、テーブルの最上部にある [Delete (削除)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [Actions (アクション)] 列の下の [Delete (削除)] をクリックすることもできます。</p>
[サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ボタン	<p>[サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ウィザードは、特定のサーバ再起動タスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することで開くことができます。</p>
[サーバ再起動タスクの追加 (Add Server Restart Task)] ウィンドウ	<p>サーバ再起動タスクを追加する方法については「再起動タスクの作成」を参照してください。</p>
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで、ドロップダウン リストからクラスタを選択します。クラスタの選択後、選択されたクラスタに基づいて [クラスタ ノード (Cluster Nodes)] テーブルに示されているノードが変更されます。再起動するサーバを選択します。</p>
[Set Start Time (開始時間の設定)] ページ	<p>[Set Start Time (開始時間の設定)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p>

## 再アドレス付けビュー

設定	説明
[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence) ] ページ	<p>[実行シーケンスの設定 (Set Run Sequence) ] から、再起動がサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[最後に設定した実行シーケンスを使用 (Use Last Configured Run Sequence) ] チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す) ] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[Review (レビュー) ] ページ	<p>[レビュー (Review) ] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes) ] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes) ] フィールドに注記を追加することができます。</p>

## 関連トピック

[サーバ再起動の作業](#)

## 再アドレス付けビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
Status	<p>再アドレス付けタスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Successful (成功) ] : タスクがエラーなしで終了したことを示します</li> <li>• [Running (実行中) ] : タスクが現在実行中であることを示します</li> <li>• [Scheduled (スケジュール) ] : タスクがまだ開始されていないことを示します</li> <li>• [Canceled (取り消し) ] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します</li> <li>• [Paused (一時停止) ] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止) ] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています</li> <li>• [Failed (失敗) ] : エラーによりタスクが停止したことを示しています</li> </ul>
Start Time	再アドレス付けタスクの開始時刻を指定します。
Last Status Report Time (最後のステータス レポート時刻)	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	再アドレス付けクラスタを指定します。
注記	[再アドレス付け タスクの追加 (Add Readdress Task) ] ウィザードの [レビュー (Review) ] 部分で追加された注記

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。</li> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Readdress Task (再アドレス付けタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。</li> <li>• [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [Start Task (タスク開始)] は、[Set Start Time (開始時間の設定)] パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリング ページで使用できなくなります。</p> </li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Retry (再試行)] : これによりタスクが再起動し、最後に失敗したタスクのアクションが再試行されます。</li> <li>• [Resume (再開)] : これにより、タスクが次の手順 (失敗した手順の後の手順) で開始します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [Failed (失敗)] ステータス :               <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウンリストから以下のオプションのいずれかを選択することで、再アドレス付けタスクごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。</li> <li>• [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。</li> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。</li> <li>• [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。</li> <li>• [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。</li> <li>• [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。</li> <li>• [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。</li> </ul>
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの最上部にある [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [操作 (Actions)] 列の下の [削除 (Delete)] をクリックすることもできます。</p>
[Add Readdress Task (再アドレス付けタスクの追加)] ボタン	<p>[Add Readdress Task (再アドレス付けタスクの追加)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [再アドレス付けタスクの追加 (Add Readdress Task)] ウィザードは、特定の再アドレス付けタスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
[Add Readdress Task (再アドレス付けタスクの追加)] ウィンドウ	<p>再アドレス付けタスクの追加方法については「再アドレス付けタスクの作成」を参照してください。</p>
[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページ	<p>[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで、ドロップダウン リストからクラスタを選択します。このクラスタに関連付けられたノードで [View Nodes (ノードの表示)] をクリックします。以下を識別する表内のノードをリストする [View UC Cluster Nodes (UC クラスタ ノードの表示)] ダイアログ ボックスが開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホスト名</li> <li>• IP アドレス</li> <li>• 製品</li> <li>• ロール</li> </ul> <p>[View UC Cluster Nodes (UC クラスタ ノードの表示)] ダイアログ ボックスを編集することはできません。[Close (閉じる)] をクリックし、[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページに戻ります。</p>

## インストールビュー

設定	説明
[Enter New Hostnames/IP Addresses (新規ホスト名/IPアドレスの入力)] ページ	[Enter New Hostnames/IP Addresses (新規ホスト名/IPアドレスの入力)] ページから、[Actions (アクション)] 列の下の [Edit (編集)] をクリックして [Edit Hostname/IP Address (ホスト名/IPアドレスの編集)] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、再アドレス付けをするクラスタノードに対する新規ホスト名または IP アドレスを入力できます。DHCP またはスタティック IP アドレスを使用するオプションがあります。
[Set Start Time (開始時間の設定)] ページ	<p>[Set Start Time (開始時間の設定)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p> <p>このページを使用して、再アドレスオプションを有効にすることもできます。サブネットまたはゲートウェイの変更時に再アドレスとネットワーク変更確認の手順の間に一時停止を導入する場合は、[Pause before network check] サブステップを [allow external changes] チェックボックスをオンにします。この一時停止中に、VLAN などの仮想マシン設定に必要なネットワーク変更を加えることができます。</p> <p>(注) 変更を行った後、確認を完了するためにタスクを再開します。</p>
[Set Run Sequence (実行シーケンスの設定)] ページ	<p>[Set Run Sequence (実行シーケンスの設定)] から、再アドレス付けがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>前回のシーケンスを再利用するには、[最後に設定した実行シーケンスを使用 (Use Last Configured Run Sequence)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[Review (レビュー)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

## 関連トピック

[アドレス再設定作業](#)

## インストールビュー

設定	説明
	スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル

設定	説明
Status	<p>インストール タスクに関する情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します</li> <li>• [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します</li> <li>• [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します</li> <li>• [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します</li> <li>• [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています</li> <li>• [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています</li> </ul>
Start Time	インストール タスクの開始時刻を指定します。
Last Status Report Time (最後のステータス レポート時刻)	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	インストール クラスタを指定します
注記	[インストール タスクの追加 (Add Install Task)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

## ■ インストールビュー

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべての ESXi ホストが存在し、VM が正しい状態にあり、インストールで使用する .iso ファイルが存在することを確認するための検証テストを実行します。</li> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。</li> <li>• [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [Start Task (タスク開始)] は、[Set Start Time (開始時間の設定)] パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリングページで使用できなくなります。</p> </li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Retry (再試行)] : 最後に失敗した手順を再試行します。このボタンによって、タスクは失敗した最後の手順を再試行し、タスクを再起動します。</li> <li>• [再開 (Resume)] : 次の手順でタスクを再開します。このオプションは、失敗した手順が重要ではない場合、またはその手順を手動で実行した場合にのみ使用してください。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [Failed (失敗)] ステータス :</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウンリストから以下のオプションのいずれかを選択することで、インストールタスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。</li> <li>• [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。</li> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。</li> <li>• [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。</li> <li>• [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。</li> <li>• [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。</li> <li>• [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。</li> </ul>
フィルタ	検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。
削除	タスクの横にあるチェックボックスをクリックし、テーブルの最上部にある [Delete (削除)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [Actions (アクション)] 列の下の [Delete (削除)] をクリックすることもできます。
[Add Install Task (インストール タスクの追加)] ボタン	<p>[Add Installation Task (インストール タスクの追加)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [インストール タスクの追加 (Add Installation Task)] ウィザードは、特定のインストール タスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
[Add Installation Task (インストール タスクの追加)] ウィンドウ	<p>インストール タスクの追加方法については、「インストール タスクの作成」を参照してください。</p>
[インストール クラスタの選択 (Choose Installation Cluster)] ページ	[クラスタの選択 (Choose Cluster)] ページで、ドロップダウンリストからクラスタを選択します。クラスタの選択後、選択されたクラスタに基づいて [インストール クラスタ ノード (Installation Cluster Nodes)] テーブルに示されているノードが変更されます。
[インストール ファイルの選択 (Choose Installation Files)] ページ	[インストール ファイルの選択 (Choose Installation Files)] ページから、ステー징 クラスタにインストールするインストール イメージを選択します。ISO イメージは、Cisco Prime Collaboration Deployment のシステム sftp サーバ上の /install ディレクトリにアップロードする必要があります。

設定	説明
[Set Start Time (開始時間の設定)] ページ	[Set Start Time (開始時間の設定)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。  (注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。  特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。
[インストール シーケンスの指定 (Specify Installation Sequence)] ページ	[インストール シーケンスの指定 (Specify Installation Sequence)] から、インストールがサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。  デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。
[Review (レビュー)] ページ	[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。  将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。

### 関連トピック

[インストール作業](#)

## 移行ビュー

設定	説明
スケジュールされたタスクおよび履歴テーブル	
Status	移行タスクに関する情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Successful (成功)] : タスクがエラーなしで終了したことを示します</li> <li>• [Running (実行中)] : タスクが現在実行中であることを示します</li> <li>• [Scheduled (スケジュール)] : タスクがまだ開始されていないことを示します</li> <li>• [Canceled (取り消し)] : ユーザがタスクを実行しないことを選択したことを示します</li> <li>• [Paused (一時停止)] : タスクが一時停止状態でフィードバック待機中であることを示します</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : タスクがシステム内のエラーにより一時停止状態になっていることを示しています</li> <li>• [Failed (失敗)] : エラーによりタスクが停止したことを示しています</li> </ul>
Start Time	移行タスクの開始時刻を指定します。
Last Status Report Time (最後のステータス レポート時刻)	アクションが完了した時刻を指定します。完了したアクションは成功または失敗のいずれかの状態です。
クラスタ	移行されるクラスタを指定します。
注記	[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードの [レビュー (Review)] 部分で追加された注記

## 移行ビュー

設定	説明
アクション	

設定	説明
	<p>以下は、ステータスと対応するアクションを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Run Validation Test (検証テストの実行)] : すべてのノードが利用可能で、指定したどの新規アドレスにもアクセスできないことを確認する検証テストを実行します。VMが存在するESXiホストがマウントされていることも確認します。使用される.isoファイルが存在することも検証します。</li> <li>• [Edit (編集)] : [Edit Upgrade Task (アップグレードタスクの編集)] ウィンドウを表示します。選択したタスクを編集することを可能にします。</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Canceled (キャンセル)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> <li>• [Started (開始)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Paused (一時停止)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Resume (再開)] : 次の手順でタスクを再起動します。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします。</li> <li>• [Start Task (タスク開始)] : タスク開始はタスクが手動で開始された場合に存在します。このアクションでは時間は選択されません。 <p>(注) [Start Task (タスク開始)] は、[Set Start Time (開始時間の設定)] パネルで [Start task manually (手動でタスクを開始)] オプションを選択した場合にのみ適用されます。</p> <p>タスクを手動で選択すると再開オプションはモニタリングページで使用できなくなります。</p> </li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• Paused due to Error (エラーにより一時停止) : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Retry (再試行)] : 最後に失敗した手順を再試行します。このボタンによって、タスクは失敗した最後の手順を再試行し、タスクを再起動します。</li> <li>• [再開 (Resume)] : 次の手順でタスクを再開します。このオプションは、失敗した手順が重要ではない場合、またはその手順を手動で実行した場合にのみ使用してください。</li> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Cancel Task (タスクのキャンセル)] : 選択したタスクをキャンセルします</li> </ul> </li> <li>• [Successful (成功)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> </ul> </li> </ul>

設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> <li>• [Failed (失敗)] ステータス : <ul style="list-style-type: none"> <li>• [View Details (詳細の表示)] : 使用可能なすべてのタスクを表示するモニタリング ページにナビゲートします</li> <li>• [Delete (削除)] : 選択したタスクを永続的に削除します。</li> </ul> </li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウン リストから以下のオプションのいずれかを選択することで、移行タスクをステータスごとにフィルタすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Quick Filter (クイック フィルタ)] : ステータスに基づいてタスクをフィルタします。</li> <li>• [All (すべて)] : 利用可能なすべてのタスクを表示します。</li> <li>• [Scheduled (スケジュール済み)] : スケジュールされたタスクを表示します。</li> <li>• [Canceled (キャンセル)] : キャンセルされたタスクを表示します。</li> <li>• [Running (実行中)] : 開始されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused (一時停止)] : 一時停止されたタスクを表示します。</li> <li>• [Paused due To Error (エラーにより一時停止)] : システムのエラーにより一時停止しているタスクを表示します。</li> <li>• [成功 (Successful)] : 成功したタスクを表示します。</li> <li>• [失敗 (Failed)] : 失敗したタスクを表示します。</li> </ul>
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、[Filter (フィルタ)] をクリックします。</p>
削除	<p>タスクの横にあるチェックボックスをオンにし、テーブルの最上部にある [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。削除するタスクの [操作 (Actions)] 列の下の [削除 (Delete)] をクリックすることもできます。</p>
[Add Migration Task (移行タスクの追加)] ボタン	<p>[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードを開きます。</p> <p>(注) [移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードは、特定の移行タスクの [操作 (Actions)] 列の [編集 (Edit)] を選択することでも開くことができます。</p>
[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィンドウ	<p>移行タスクの追加方法については、「移行タスクの追加」を参照してください。</p>
[送信元および宛先クラスタの選択 (Choose Source and Destination Clusters)] ページ	<p>[送信元および宛先クラスタの選択 (Choose Source and Destination Clusters)] ページで、ドロップダウン リストから送信元 UC クラスタを選択します。送信元クラスを選択後に、ドロップダウン リストから宛先クラスタを選択し、[送信元から宛先クラスタのノード マッピング (Node Mapping from Source to Destination Cluster)] テーブルからノードを選択します。</p>
[アップグレード ファイルの選択 (Choose Upgrade File)] ページ	<p>[Choose Upgrade File (アップグレードファイルの選択)] ページから、アップグレードされる各製品に対するアップグレード ファイルを選択します。[Choose Cluster (クラスタの選択)] ページで選択した製品タイプのファイルを選択するオプションのみ利用できます。</p>

設定	説明
[Set Start Time (開始時間の設定)] ページ	<p>[Set Start Time (開始時間の設定)] ページから、タスクに対する開始時間を選択します。</p> <p>(注) 指定された時間は、選択されたクラスタのタイムゾーンではなく、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ時間に基づいています。</p> <p>特定の開始時間の設定、タスクの手動による開始、またはウィザード完了時にタスクを即時開始する設定のオプションがあります。</p>
[移行手順の指定 (Specify Migration Procedure)] ページ	<p>[移行手順の指定 (Specify Migration Procedure)] ページから、移行がサーバで処理されるシーケンスを指定します。手順のシーケンスは、特定の手順の上矢印と下矢印をクリックすることで変更できます。手順を追加および削除したり、既存の手順を編集できます。</p> <p>デフォルトでは、各ノードが手順にシーケンスされています。[Revert to Default (デフォルトに戻す)] ボタンは、手順を元の状態に戻します。</p>
[Review (レビュー)] ページ	<p>[レビュー (Review)] ページは、前の手順で選択したオプションの概要を示します。[ノード (Nodes)] フィールドにリストされるノードは表示専用であり、選択することはできません。</p> <p>将来の参照用に [注記 (Notes)] フィールドに注記を追加することができます。</p>

### 関連トピック

[移行タスク](#)

## インベントリ ビュー要素

### クラスタ

設定	説明
クラスタ テーブル	
クラスタ名	使用可能なクラスタを表示します。
製品およびバージョン	クラスタがそのバージョンとともに追加された製品を表示します。
ノード	クラスタに関連付けられているノードの数を表示します。
クラスタ タイプ	検出された、新規インストール、または移行などのクラスタタイプを表示します。

設定	説明
検出ステータス	<p>クラスタのディスカバリステータスを表示します。このフィールドには、次のディスカバリステータスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 照会</li> <li>• 検出中 (Discovering)</li> <li>• 成功 (Successful)</li> <li>• ノードは到達不可能です (Node Unreachable)</li> <li>• タイムアウト</li> <li>• 内部エラー</li> </ul>
アクション	<p>次のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[編集 (edit)]</b>: まだインストールされていない追加の新しいノードを編集します。</li> <li>• <b>[削除 (delete)]</b>: まだインストールされていない追加の新しいノードを削除します。</li> </ul>
表示する	<p>ドロップダウンリストから次のオプションのいずれかを選択することにより、クラスタタスクをステータス別にフィルタすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[すべて (all)]</b>: 使用可能なすべてのクラスタを表示します。</li> <li>• <b>[検出済み (検出)]</b>: スケジュールされているクラスタを表示します。</li> <li>• <b>[新規インストール (New Install)]</b>: 新しくインストールされたクラスタを表示します。</li> <li>• <b>[移行 (Migration)]</b>: 移行されたクラスタを表示します。</li> </ul>
フィルタ	<p>検索ウィンドウの最下部で検索ルールを設定するには、ステータスを選択し、<b>[フィルタ (Filter)]</b> をクリックします。</p>
[クラスタ検出 (Discover Cluster) ] ボタン	<p>このボタンをクリックすると、Cisco Prime Collaboration Deployment が、すでに Unified Communications アプリケーションを実行しているサーバと通信して、そのクラスタ情報を Cisco Prime Collaboration Deployment インベントリに追加します。</p>
<p><b>[移行宛先クラスタの定義 (Define Migration Destination Cluster) ]</b></p> <p>移行クラスタの作成方法については、を参照<a href="#">移行クラスタの作成</a>してください。</p>	

設定	説明
クラスタページの指定	<p>移行タスクの宛先クラスタを設定するには、次のフィールドの詳細を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ Source Cluster ]</b>: ドロップダウンリストから、送信元 UC クラスタを選択します。</li> <li>• <b>[ ノードの表示 (View Nodes) ]</b>: このリンクをクリックすると、使用可能なクラスタノードが表示されます。</li> <li>• <b>[ Active versions ]</b>: ソース UC クラスタのアクティブなバージョンが表示されます。</li> <li>• <b>[ Destination Cluster ニックネーム ]</b>: 宛先クラスタのニックネームを入力します。</li> <li>• <b>[ Destination Network Settings ]</b>: 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[ Use the source node network settings for all destination nodes ]</b>: デフォルトのネットワークオプションを保持するには、このオプションを選択します。</li> <li>• <b>[ 1 つ以上の宛先ノードの新しいネットワーク設定を入力 (Enter new network settings for one or more destination nodes) ]</b>: デフォルトのネットワーク設定を変更したり、新しいネットワークオプションを入力したりする場合には、このオプションを選択します。</li> </ul> </li> </ul> <p>(注) [すべての宛先ノードに対して送信元ノードのネットワーク設定を使用 (Use the source node network settings for all destination nodes) ] オプションを選択した場合は、[宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes) ] ウィンドウの送信元ノードの [NAT IP] 列と [宛先 NAT IP (Dest NAT IP) ] 列の両方に同じ IP アドレスが表示されます。[1 つまたは複数の宛先ノードに対する新規ネットワーク設定を入力 (Enter new network settings for one or more destination nodes) ] オプションを選択すると、[宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes) ] ウィンドウには送信元ホスト名だけが表示され、宛先ホスト名は表示されません。</p>

設定	説明
[宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes) ] ページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [ <b>Source cluster</b> ]: ソースクラスタの名前が表示されます。</li> <li>• [ <b>宛先クラスタ (Destination cluster)</b> ]: 宛先クラスタの名前が表示されます。</li> <li>• [ <b>Assign Destination Cluster Nodes</b> ]: 宛先仮想マシンをソースクラスタ内のノードに関連付けるには、このボタンをクリックします。</li> </ul> <p>(注) DHCPが送信元ノードで使用されている場合は、宛先ノードもDHCPを使用するように設定され、このウィザードにはネットワーク設定を変更するオプションが表示されません。</p>
[NTP/SMTP 設定の構成 (Configure NTP/SMTP Settings) ]	<p>移行タスクの実行時に移行ノードにNTPとSMTPを設定するには、次のセクションの詳細を入力します。</p> <p>[ <b>Network Time Protocol (NTP) Configuration</b> ] ウィンドウ: 次のフィールドの少なくとも1つのIPアドレスを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>NTPサーバ1</b></li> <li>• <b>NTPサーバ2</b></li> <li>• <b>NTPサーバ3</b></li> <li>• <b>NTPサーバ4</b></li> <li>• <b>NTPサーバ5</b></li> </ul> <p>(オプション) [Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) の設定 (Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) Configuration) ] ウィンドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [SMTPサーバ (SMTP Server) ] : SMTPサーバのIPアドレスを入力します。</li> </ul>
DNS 設定の定義	<p>任意機能とともに追加された使用可能なホストから、移行クラスタノードのDNS設定を構成するノードをオンにし、[ <b>Dns 設定の割り当て (Assign Dns Settings)</b> ] をクリックします。</p>
<p>[ <b>クラスタ検出 (Discover Cluster)</b> ] ウィンドウ</p> <p>クラスタを検出する方法については、 <a href="#">クラスタの検出</a> を参照してください。</p>	

設定	説明
[クラスタ アクセス (Cluster Access) ] ページ	<p>次のフィールドに詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>このクラスタのニックネームを選択:</b> クラスタのニックネームを入力します。</li> <li>• <b>[ホスト名/Ip アドレス (Hostname/Ip address Of Cluster パブリッシャ):</b> クラスタのパブリッシャノードのホスト名または ip アドレスのいずれかを入力します。</li> <li>• <b>[ Os Admin Username]:</b> os 管理者のユーザ名を入力します。</li> <li>• <b>[Os 管理者パスワード (Os Admin password):</b> os 管理者のパスワードを入力します。  (注) クラスタパスワードが16文字未満であることを確認します。</li> <li>• <b>[NAT の有効化 (Enable NAT) ]:</b> クラスタの NAT を有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。  (注) [ <b>ENABLE nat</b> ] チェックボックスをオンにすると、[Cluster Discovery Progress] ページに [ <b>nat IP</b> ] 列が表示されます。</li> </ul>

設定	説明
[クラスタ検出進捗 (Cluster Discovery Progress) ] ページ	<p>このページには、次のフィールドにクラスタディスカバリのステータスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [クラスタ名 (Cluster name)]: クラスタ検出のステータスメッセージとともにクラスタ名が表示されます。</li> <li>• [ホスト名 (Hostname) ]: ホスト名が表示されます。</li> <li>• [ Contact Status]: クラスタディスカバリの次のステータスのいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 照会</li> <li>• 検出中 (Discovering)</li> <li>• 成功 (Successful)</li> <li>• ノードは到達不可能です (Node Unreachable)</li> <li>• タイムアウト</li> <li>• 内部エラー</li> </ul> </li> <li>• [製品 (product)]: クラスタの製品を表示します。</li> <li>• [アクティブなバージョン (Active version)]: 現在使用中のバージョンが表示されます。</li> <li>• [非アクティブバージョン (Inactive version)]: 現在使用されていないバージョンが表示されます。</li> <li>• [NAT IP]: この列は、[クラスタアクセス] ページの [ nat の有効化 (Enable NAT) ] チェックボックスをオンにした場合にのみ表示されます。</li> <li>• [ハードウェア (hardware)]: クラスタに関連付けられているハードウェアが表示されます。</li> </ul>

設定	説明
[クラスタ ロール割り当て (Cluster Role Assignment) ] ページ	<p>このページには、次のフィールドにクラスタのロール割り当てが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ホスト名 (Hostname) ]: ホスト名が表示されます。</li> <li>• [製品 (Product) ]: クラスタの製品が表示されます。</li> <li>• [関数 (Functions): 特定のノードに割り当てられているさまざまなロールが表示されます。たとえば、パブリッシャ、プライマリ TFTP、セカンダリ TFTP などです。</li> <li>• [SFTP サーバ (SFTP Server): ISO ファイルの場所が表示されます。 デフォルトでは、SFTP サーバは PCD です。</li> <li>• [設定の編集 (Edit Settings)]: ノードにより多くのロールまたは機能を割り当てることができます。</li> </ul>
<p><b>[Define New UC Cluster] ウィンドウ</b></p> <p>新しいクラスタのインストール方法については、を参照<a href="#">フレッシュインストールのために新規クラスタを追加</a>してください。</p> <p>このボタンをクリックすると、新しい UC クラスタのインストールプロセスを指示するウィザードが表示されます。</p>	
クラスタ名の指定ウィンドウ	このクラスタのニックネームを選択します: クラスタ名を入力します

設定	説明
[仮想マシンの追加 (Add Virtual Machines) ] ウィンドウ	<p>次のフィールドに詳細情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ノードの追加 (Add node):</b> [使用可能 (available)] チェックボックスからノードを追加するための1つ以上の機能をオンにします。</li> <li>• <b>[メモ (Notes):</b>(オプション) 選択したクラスタのノードを追加します。</li> <li>• <b>[仮想マシン (Virtual machines):</b> 使用可能な仮想マシンからノードを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(注) 使用可能なVmは、名前とホストによってソートされます。VM名、ESXiホスト、電源状態などの仮想マシンの詳細がこのウィンドウに表示されます。</li> </ul> </li> <li>• <b>[表示 (Show):</b> ドロップダウンリストから [オプション (options)] を選択して、仮想マシンをステータス別にフィルタ処理できます。</li> <li>• <b>[ネットワーク (Network):</b> 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[静的 ip アドレス (Static IP address):</b> ホスト名、ip アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、および NAT IP フィールドの詳細を入力します。</li> <li>• <b>[予約がある DHCP を使用 (Use DHCP with Reservations) ] :</b> ホスト名に加えて、(その VM の MAC アドレスに関連付けられている) DHCP サーバ上で予約のある IP アドレスを入力します。</li> </ul> </li> <li>• <b>[製品と機能 (Products And Functions):</b> ドロップダウンリストから、製品を選択します。[機能 (Functions) ] セクションで、ご使用の VM に該当する機能のチェック ボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(注) <ul style="list-style-type: none"> <li>• アプリケーションタイプごとに、定義されているクラスタ内の少なくとも1つのノードで [パブリッシャ (Publisher) ] チェックボックスをオンにします。</li> <li>• (オプション) [パブリッシャ (Publisher) ] フィールドの下の [注記 (Notes) ] フィールドに、割り当てた機能に関する注を追加します。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• <b>[仮想マシン (Virtual Machines)]</b> セクション: 選択したノードの VM を選択します。</li> </ul>

設定	説明
[クラスタ全体設定の構成 (Configure Cluster Wide Settings) ] ウィンドウ	<p>次のセクションのフィールドの詳細を入力します。</p> <p><b>[OS 管理者クレデンシャル (OS Administration Credentials) ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ユーザ名 ( Username)]: OS 管理者のユーザ名を入力します。</li> <li>• [パスワード (password)]: ユーザ名のパスワードを入力します。</li> <li>• [パスワードの確認 (Confirm Password) ]: [パスワード (Password) ]フィールドに入力したものと同一パスワードを再入力します。</li> </ul> <p><b>[アプリケーションのクレデンシャル (Application Credentials) ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ユーザ名 (Username) ]: アプリケーション ユーザのユーザ名を入力します。</li> <li>• [パスワード (password)]: ユーザ名のパスワードを入力します。</li> <li>• [パスワードの確認 (Confirm Password) ]: [パスワード (Password) ]フィールドに入力したものと同一パスワードを再入力します。</li> </ul> <p><b>セキュリティ パスワード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [パスワード (Password)]: クラスタのセキュリティパスワードを入力します。</li> <li>• [パスワードの確認 (Confirm Password) ]: [パスワード (Password) ]フィールドに入力したものと同一パスワードを再入力します。</li> </ul> <p><b>SMTP 設定(オプション)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [SMTP サーバ (SMTP Server) ]: SMTP サーバの IP アドレスを入力します。</li> </ul> <p><b>証明書情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [組織 (Organization) ]: 証明書が使用される組織の名前を入力します。</li> <li>• [ユニット (Unit): 使用されている証明書の数を入力します。</li> <li>• [ロケーション (location): 証明書が使用されている場所を入力します。</li> <li>• [状態 (state): 証明書が使用されている状態を入力します。</li> <li>• [国 (country)]: ドロップダウンリストから、証明書が使用されている国を選択します。</li> </ul>

設定	説明
[DNS 設定の構成 (Configure DNS Settings) ] ウィンドウ	任意機能とともに追加された使用可能なホストからノードをチェックして、ノードの DNS 設定を構成し、[ <b>Dns 設定の割り当て (Assign Dns Settings)</b> ] をクリックします。
[NTP 設定の構成 (Configure NTP Settings) ]	ネットワークタイムプロトコルを設定するには、次のフィールドに少なくとも1つの NTP サーバの詳細を入力します。DNS を使用しない場合は、NTP サーバは IP アドレスである必要があります。DNS を使用する場合は、NTP サーバは FQDN にできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>NTPサーバ1</b></li> <li>• <b>NTPサーバ2</b></li> <li>• <b>NTPサーバ3</b></li> <li>• <b>NTPサーバ4</b></li> <li>• <b>NTPサーバ5</b></li> </ul> <p>(注) 少なくとも2つの NTP サーバの IP アドレスを定義することをお勧めします。</p>
[NIC 設定の構成 (Configure NIC Settings) ]	(オプション) 次のフィールドの詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Hostname, Functions, and MTU size] カラム: 使用可能なサーバから、サーバのチェックボックスをオンにします。</li> <li>• <b>Mtu サイズ (Mtu size)</b>: 552~1500 の範囲の mtu サイズを入力し、[ <b>Apply to Selected</b> ] をクリックします。</li> <li>• [ <b>Apply To selected</b> ]: 選択したホストの MTU サイズを適用するには、このボタンをクリックします。</li> <li>• [ <b>デフォルト mtu の適用 (Apply Default mtu)</b> ]: 選択したホストの mtu サイズのデフォルト値を適用するには、このボタンをクリックします。</li> </ul>
タイムゾーンの設定ウィンドウ	各クラスタノードのタイムゾーンを指定するには、次のフィールドの詳細を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ <b>リージョン (region)</b> ]: ドロップダウンリストから、クラスタノードのリージョンを選択します。</li> <li>• [ <b>タイムゾーン (Time zone)</b> ]: ドロップダウンリストから、選択した地域のタイムゾーンを選択します。</li> <li>• [ <b>Apply To Selected</b> ]: 各クラスタノードのタイムゾーンの変更を適用するには、このボタンをクリックします。</li> </ul>

## ESXi ホストビュー

設定	説明
<b>[ESXi ホスト (ESXi Hosts) ]</b> テーブル	
ホスト名	ESXi ホスト名を表示します。
IP Address	ESXi ホストの IP アドレスを表示します。
説明	ESXi ホストの説明 (存在する場合) を表示します。
アクション	次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[編集 (edit)]</b>: ESXi ホストの詳細を編集するには、このリンクをクリックします。</li> <li>• <b>[削除 (Delete)]</b>: データベースから ESXi ホストを削除するには、このリンクをクリックします。</li> </ul>
ESXi ホストの追加	データベースに ESXi ホストを追加するには、このボタンをクリックします。
<b>[ESXi ホストの追加 (Add ESXi Host) ]</b> ウィンドウ	
[ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address) ]	ESXi ホストのホスト名または IP アドレスを入力します。
ユーザ名	ユーザ名を入力します。
パスワード	ユーザのパスワードを入力します。
説明	(オプション) ESXi ホストの説明を入力します。

## SFTP サーバとデータストア

設定	説明
<b>SFTP サーバ/データストア</b> セクション	
<p>Cisco Prime Collaboration Deployment server は、ローカル SSH ファイル転送プロトコルまたは Secure File Transfer Protocol (SFTP) サーバとして機能し、アップグレード、新規、インストール、および移行のタスクで使用される ISO および COP ファイルを保存します。</p> <p>SFTP データストアの詳細について <a href="#">SFTP サーバとデータストア (43 ページ)</a> は、を参照してください。</p>	

設定	説明
削除	データストアから選択した SFTP サーバを削除するには、このボタンをクリックします。
サーバの追加	選択した SFTP サーバをデータストアに追加するには、このボタンをクリックします。
サーバIP	データストア内の使用可能な SFTP サーバの IP アドレスを表示します。
サーバの説明	使用可能な SFTP サーバに追加された説明を表示します。
データベースディレクトリ	SFTP サーバのディレクトリパスを表示します。
Status	SFTP サーバのステータスを表示します。たとえば、Connected および Local などです。
アクション	次のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[編集 (Edit)]</b>: SFTP サーバの詳細を編集するには、このリンクをクリックします。</li> <li>• <b>[削除 (Delete)]</b>: 選択した SFTP サーバをデータストアから削除するには、このリンクをクリックします。</li> </ul>
「 SFTP/Datastore Files 」 セクション	
削除	選択した SFTP サーバの ISO および COP ファイルをデータストアから削除するには、このボタンをクリックします。
ファイル名	SFTP サーバの使用可能な ISO ファイルと COP ファイルを表示します。
サーバIP	SFTP サーバの IP アドレスが表示されます。
サーバの説明	使用可能な SFTP サーバに追加された説明を表示します。
[ディレクトリ (Directory) ]	SFTP サーバの SFTP ファイルが保存されているディレクトリ名を示します。
ファイル タイプ	ファイルのタイプ (アップグレードファイルや新規インストールなど) を表示します。
コピー先 (ローカル)	SFTP ファイルがデータストアにコピーされるときにデータ、時間、およびタイムゾーンを表示します。

## 管理ビュー要素

### 電子メール通知の表示

設定	説明
	[通知設定 (Notification Settings) ] セクション 詳細については、 <a href="#">電子メール通知</a> を参照してください。

設定	説明
通知	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[電子メール通知を送信しない (Do not send email notification)]</b>: エラーまたはタスクのタイプに関する電子メール通知を受信しない場合は、このオプションを選択します。        (注) このオプションを選択すると、このセクションのすべてのフィールドが編集不可になります。</li> <li>• <b>[エラーのみ (Errors only)]</b>: エラーが発生した場合にのみ電子メールを送信します。次の状態でタスクイベントエラーの電子メール通知を受信する場合は、このオプションを選択します。       <ul style="list-style-type: none"> <li>• スケジュールできませんでした (Failed to Schedule)</li> <li>• 失敗しました</li> <li>• キャンセルできませんでした (Failed to Cancel)</li> <li>• エラーのため一時停止 (Paused on Error)</li> </ul> </li> <li>• <b>[標準 (Standard)]</b>: タスクの開始、一時停止、終了、またはエラーが発生したときに電子メールを送信するには、タスクが次のいずれかの状態になったときに電子メール通知を受信する場合は、このオプションを選択します。       <ul style="list-style-type: none"> <li>• スケジュール済み</li> <li>• スケジュールできませんでした (Failed to Schedule)</li> <li>• 開始済み</li> <li>• 成功 (Successful)</li> <li>• 失敗 (Failed)</li> <li>• キャンセル</li> <li>• キャンセルしています</li> <li>• キャンセルできませんでした (Failed to Cancel)</li> <li>• Paused on Error (エラーのため一時停止)</li> <li>• 一時停止 (Paused)</li> <li>• 一時停止 - 必須 (Paused - Required)</li> </ul> </li> </ul>
メール受信者	<p>1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力します。</p> <p>(注) 複数のメールアドレスはカンマで区切ってください。</p>

設定	説明
[TLS を使用 (Use TLS) ]	このチェックボックスをオンにすると、Transport Layer Security (TLS) プロトコルによってプライバシーが確保され、アプリケーションと電子メールの受信者との間の電子メールの改ざんが防止されます。
<b>メールサーバクレデンシャルセクション</b>	
ユーザ名	メールサーバのユーザ名を入力します。
パスワード	メールサーバにログインするためのパスワードを入力します。
<b>サーバ設定セクション</b>	
SMTP サーバ	SMTP サーバの IP アドレスを入力します。
ポート	SMTP サーバのポートの数を入力します。
[保存 (Save) ]	このページで加えた変更を保存する場合に、このボタンをクリックします。
リセット	このページでデフォルト値を設定するには、このボタンをクリックします。
テストメールの送信	このボタンをクリックして、1つ以上の受信者にエラーのみおよび標準オプションのテスト電子メールを送信します。

## NAT 設定

設定	説明
<b>[PCD NAT 設定 (PCD NAT Settings) ]</b>	
ネットワークアドレス変換の詳細については、 <a href="#">ネットワークアドレス変換のサポート</a> を参照してください。	
ホスト名	サーバのホスト名が表示されます。
プライベートIP	プライベートネットワーク内にあるサーバの IP アドレスを表示します。
NAT IP	NAT IP アドレスを入力します。
[保存 (Save) ]	NAT IP アドレスは、Cisco Prime Collaboration Deployment のコンフィギュレーションファイルのエントリとして保存されます。このエントリは、アプリケーションノードが Cisco Prime Collaboration 導入に接続しようとしたときに使用されます。
リセット	(オプション) NAT IP アドレスが過去に保存された NAT IP アドレスにリセットされます。

## ディスク領域警告レベル

設定	説明
<b>ディスク領域警告レベルの設定</b> 詳細については、 <a href="#">ディスク領域警告レベル</a> を参照してください。	
合計ディスク領域 (GB)	サーバの合計ディスク領域を表示します。
使用可能なディスク領域 (GB)	サーバで使用可能なディスク領域を表示します。
警告レベルのディスク領域(GB)	ディスク容量の警告値を入力します。この値を入力したら、 <a href="#">[情報 (information)]</a> リンクをクリックして、入力したスペース値がサーバで使用できるかどうかを確認します。
[保存 (Save) ]	警告ディスク領域の値を保存します。
リセット	任意デフォルト値を使用してページをリセットします。

## 最大ノードの設定

設定	説明
最大ノード数	サーバ上で、 <a href="#">[最大化 (最大化)]</a> im ノードを入力します。
[保存 (Save) ]	最大ノード値を保存します。
リセット	任意デフォルト値を使用してページをリセットします。

## 監査ログ設定

設定	説明
監査レベルの設定セクション	

設定	説明
アプリケーション監査イベントレベル	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[情報 (Info)]</b>: 監査イベントレベルを情報メッセージとして表示します。</li> <li>• <b>[警告 (warning)]</b>: 監査イベントレベルを警告メッセージとして表示します。</li> <li>• <b>[デバッグ (debug)]</b>: 監査イベントレベルをデバッグメッセージとして表示します。</li> <li>• <b>[エラー (error)]</b>: 監査イベントレベルをエラーメッセージとして表示します。</li> </ul>
[ <b>Remote SysLog Settings</b> ] セクション	
[リモート Syslog サーバ名/IP (Remote Syslog Server Name / IP) ]	このリモートサーバにログインする監査ログのリモート syslog サーバの名前または IP アドレスを入力します。
[ローカル監査ログの設定 (Local Audit Log Settings) ]	
ローカル監査ログの有効化	<p>ローカル監査ログを有効または無効にするには、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このフィールドをオンにすると、監査イベントがローカルサーバに記録されます。このフィールドをオフにすると、監査イベントはローカルサーバに記録されません。監査イベントには、ユーザ ID、ClientAddress、Severity、EventType、ResourceAccessed、EventuStatus、AuditCategory、CompulsoryEvent、ComponentID、CorrelationID、および Node ID が含まれます。</li> <li>• このフィールドをオンにすると、[ログローテーションの有効化 (Enable Log Rotation) ] フィールドがアクティブになります。</li> </ul>

設定	説明
ログローテーションを有効にする (Enable Log Rotation)	<p>ログローテーションを有効または無効にするには、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ローカル監査ログの有効化 (Enable Local Audit Log)] フィールドが有効になっている場合は、このフィールドを設定できます。</li> <li>• このフィールドを有効にすると、[Maximum No Of Files]、[maximum FILE Size (MB)]、および [Warning Threshold for Log Rotation Overwrite (%)] フィールドを設定できます。[ローカル監査ログを有効にする (Enable Local Audit Log)] フィールドをオフにすると、これらのフィールドのデフォルト値はアクティブではないため適用されません。</li> </ul>
[最大ファイル数 (Maximum No of Files) ]	<p>[Maximum No Of files] フィールドに、サーバ上で作成できるファイルの最大数を設定するための整数値を入力します。</p> <p>[ログローテーションの有効化 (Enable Log Rotation)] フィールドをオンにすると、[最大ファイル数 (Maximum No of Files)] フィールドの値を設定できます。ファイル数が設定された値に達すると、ログローテーションプロセスが開始されます。ログローテーションプロセスでは、すべてのログファイルが削除され、ログファイル番号1から書き換えられます。</p> <p>(注) このフィールドの値は1~5000の範囲で指定する必要があります。</p>
最大ファイルサイズ (MB) (Maximum File Size (MB))	<p>[最大ファイルサイズ (MB) (Maximum File size (MB))] フィールドに、サーバ上で作成される各ログの最大ファイルサイズを設定するための値を入力します。</p> <p>(注) このフィールドの値は1~10の範囲で指定する必要があります。</p>

設定	説明
ログローテーションの上書きに近づいた場合の警告しきい値 (%)	<p>[ <b>Log Rotation Overwrite (%)</b> ] フィールドに近づいている警告しきい値の警告しきい値を入力します。</p> <p>設定された警告しきい値に達すると、監査ログファイルのバックアップを取得するために、電子メール通知がユーザに送信されます。これらのファイルは、ログローテーション中に削除または上書きされます。</p> <p>(注) このフィールドの値は 1 ~ 100 の範囲で指定する必要があります。</p> <p>詳細については、『<i>Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide</i>』の「Email notification」のトピックを参照してください。</p>
[保存 (Save) ]	このページで加えた変更を保存する場合に、このボタンをクリックします。
リセット	このページでデフォルト値を設定するには、このボタンをクリックします。

## カスタマイズされたログオンメッセージの設定

設定	説明
[カスタマイズされたログオン ファイルのアップロード (Upload Customized Logon File) ]	
[ファイルのアップロード (Upload File) ]	[参照 (browse) ] ボタンをクリックして、カスタマイズされたサインオンメッセージを含むファイルの場所を参照します。
[ユーザ確認応答が必要 (Require User Acknowledgment) ]	<p>ユーザが受信したファイルのユーザ確認応答を有効または無効にするには、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <p>このフィールドが有効になっている場合、ユーザは Cisco Prime Collaboration 導入のサインインページでアラートメッセージとして確認応答を受け取ります。このメッセージは、同じ web ブラウザインスタンスから初めてサインアウトした後に表示されます。</p>

設定	説明
[ファイルのアップロード (Upload File) ]	カスタマイズされたサインオンメッセージを含むファイルをサーバにアップロードするには、このボタンをクリックします。ファイルをアップロードすると、ファイルのアップロードステータスを示すポップアップが表示されます。
削除	カスタマイズされたサインオンメッセージを含むファイルを削除するには、このボタンをクリックします。ファイルを削除すると、ファイルの削除ステータスを示すポップアップが表示されます。

## サポートされているリリースのマトリックス

このリリースの Cisco Prime Collaboration 導入では、[管理 (Administration) ] メニューにサポートされているリリースマトリックスウィンドウが含まれています。このマトリックスを使用して、選択した製品、タスクタイプ、および Cisco Prime Collaboration 導入リリースのサポートされているリリースおよびサポートされていないリリースを表示します。

設定	説明
PCD リリース (PCD Releases)	ドロップダウンリストから、Cisco Prime Collaboration 導入のいずれかのリリースを選択します。使用可能なオプションは、リリース 10.0(1) から最新リリースまでです。
タスクタイプ	ドロップダウンリストから、次のタスクのいずれかを選択して、特定のタスクでサポートされているリリースを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて (All)</li> <li>• 移行</li> <li>• インストールするもの</li> <li>• アップグレード</li> <li>• バージョン切り替え</li> <li>• Server Restart</li> <li>• 再アドレス付け (Readdress)</li> </ul>

設定	説明
[製品タイプ (Product Type) ]	<p>ドロップダウンリストから、次のいずれかの製品を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• CUCM : Cisco Unified Communications Manager を暗示します。</li><li>• IM&amp;P : インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスを暗示します。</li><li>• CUC : Cisco Unity Connection を暗示します。</li><li>• UCCX : Cisco Unified Contact Center Express を暗示します。</li><li>• CER : Cisco Emergency Responder の略</li></ul>

サポートされているリリースマトリックスの表に対して選択した値に基づいて、[CUCM Task Type] 列の [supported release] テーブルの値が表示されます。次の表に、サポートされている製品およびサポートされていない製品のリリースと、選択したタスクタイプを示します。

サポートされているリリースのマトリックス

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。